

氏名 原 田 亮
授与した学位 博 士
専攻分野の名称 医 学
学位授与番号 博甲第 4033 号
学位授与の日付 平成21年12月31日
学位授与の要件 医歯学総合研究科病態制御科学専攻
(学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Non-prevention of post-ERCP pancreatitis by pancreatic stent after aspiration of pure pancreatic juice in patients with Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms (IPMNs) of the pancreas
(膵管内乳頭粘液性腫瘍に対する膵液採取後は膵管ステントでERCP後膵炎を予防することは出来ない)

論文審査委員 教授 三好新一郎 教授 小出 典男 准教授 猶本 良夫

学位論文内容の要旨

近年 ERCP 後膵炎予防に対して膵管ステントの有用性が報告されているがその適応に関しては明確な基準を示されていない。今回我々はその意義につき検討した。対象は 2001 年 7 月から 2007 年 10 月の間に膵管内乳頭粘液性腫瘍に対して膵液採取施行した 121 例。膵管ステントを挿入していない群を nS 群 (n=58)、挿入した群を S 群 (n=63) とし、これらでの臨床的背景や膵炎の発症率などを比較検討した。ERCP 後膵炎は全体で 11/121 例 (9.1%) 発症し、S 群では 8 例 (12.7%)、nS 群では 3 例 (5.2%) で発症率には有意な差は認めず (p=0.21)、男性における膵炎発症率は S 群 (13%)、nS 群 (0%) (p=0.04)、主膵管拡張のない主膵管径 2-3mm では、S 群 (21%)、nS 群 (0%) (p=0.03) と有意に S 群において膵炎発症率が高かった。膵管内乳頭粘液性腫瘍に対する膵液採取施行例での膵炎予防に対して膵管ステントは効果がない可能性が示唆され、また男性及び主膵管拡張を認めない症例においては、膵管ステント挿入により ERCP 後膵炎の頻度の増加を認めた。

論文審査結果の要旨

本研究は膵管内乳頭粘液性腫瘍に対する膵液採取施行例での膵炎予防に対して膵管ステントは効果がない可能性を示唆した。また、男性および主膵管拡張を認めない症例においては、膵管ステント挿入により ERCP 後膵炎の頻度が増加することを示した。近年、ERCP 後膵炎予防に関して膵管ステントの有用性が報告されているが、その適応に関しては明確な基準が示されていないことから、本研究はその適応に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。